

安全で  
働きやすい  
環境への取り組み



5



6



7

5.外国人の技能実習生等のために4か国語表記の安全看板を設置 6.冷暖房完備の休憩所 7.イスに座りながらの朝礼 8.熱中症対策として、かき水やスポーツ飲料など無料のカフェコーナー



1.2. フィールド内で分割した大屋根を地組し、大型クレーンで設置

3.4. 基礎や地上躯体にプレキャスト部材を大々的に採用し、省力化・作業の効率化を実現



LAND MARK  
京都府立京都スタジアム

命名権者の決定により「サンガスタジアム by Kyocera」の名称で2020年春にオープンする予定

Interview

株式会社竹中工務店

京都スタジアム  
新築工事  
作業所長  
中原 洸二さん



笑顔が生まれる建物を  
みんなで造る

京都スタジアムは、亀岡市民・京都府民の皆様がとても楽しみにされていて、工事見学者はすでに5000人にも上ります(2019年7月現在)。多くの人が集まって笑顔が生まれる建物を、みんなの力で、みんなの手で造っているという思いを作業員全員が共有し、士気が上がっています。京都の新たなランドマークとなる建築に携わることができ、感慨深い思いがあります。工事は大屋根の設置がほぼ終わり、予定通り進捗していますが、最後まで安全に良いものを造り、皆様に喜んでいただけるように頑張ります。

京都スタジアムは、実質23カ月で特殊建物を完成させる新築工事。建設作業員が不足するなかで、短工期に対応するため「入札時VE提案で基礎から地上の構造体を徹底してプレキャスト化し、作業効率を最大限に向上させています」(中原洸二 作業所長)。

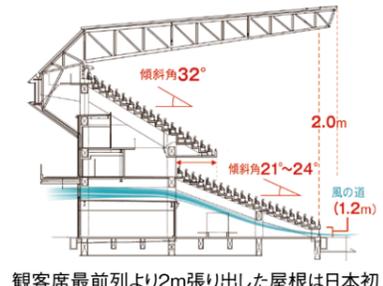
プレキャストとは、通常は現地で打設するコンクリート部材を工場などであらかじめ製作し、現場で組み立てる工法。本工事では基礎、基礎梁、柱や梁、スタンド用斜梁や段床、各階床スラブなど構造フレームの約90%をプレキャスト化することで、通常工法の約60%の現場作業員で工事を行っているという。

スタジアムの特徴でもある大屋根の工事は、当初の設計では足場や支保工などの構造物を仮設して施工する通常の工法であったが、これもVE提案で自立できるトラス形式に変更した。屋根材や照明などを地上で組み立ててユニット化し、それを写真のように大型クレーンで吊り上げて設置している。

この工法を採用したことにより、支保工や足場をほとんど設置せずすみ、工期の短縮が図れた。また、手すり・階段を先行取り付けするなどにより、危険な高所作業を大幅に削減し、安全性の向上にも貢献している。

基礎地上躯体の  
プレキャスト化で  
作業員を大幅に削減

高所作業を  
大幅に削減する  
大屋根の工法を提案



観客席最前列より2m張り出した屋根は日本初



バックスタンド下の西日本最大級の屋内クライミングウォール施設と商業ゾーンの完成イメージ

京都スタジアムプロジェクトの概要

- 発注者：京都府文化スポーツ部  
スポーツ施設整備課
- 設計者：(実施設計等)株式会社東畑建築事務所  
(構造VE設計)株式会社竹中工務店
- 施工者：(建築主体)竹中・公成・長村  
特定建設工事共同企業体
- 工事期間：着工2017年12月25日～  
竣工2019年12月28日

JR亀岡駅前に建設中の京都スタジアムは、サッカー・ラグビーの国際試合が開催可能な収容人数約2万1600人の専用球技場。2020年春にオープンし、サッカーJ2京都サンガF.C.のホームスタジアムとなる。最前列より2m張り出した屋根で全席を覆う観客席は、ピッチまで最短7.5m、最前列とピッチの高低差は1.2mと臨場感ある観戦環境で、試合が盛り上がることは間違いなく。

京都府では、このスタジアムをあこがれの舞台としてスポーツの振興を図ることはもちろん、府全体の発展の拠点として整備を進めている。1階に約1800㎡の商業スペース、西日本最大級のスポーツライミング施設を設置するなど、試合開催日以外にも日常的に賑わう府民に開かれた施設として活用する予定だ。

京都府全体の発展の拠点となる  
念願のスタジアムが完成へ



京都スタジアム完成イメージ 提供：株式会社東畑建築事務所